

誰もが知りたい

ローザンヌ宣教シリーズ

No. 23

続・名目上のクリスチャン

《追跡ルポ》「教会を去った日、
根田 祥一 教会へ帰った日」



Let
the Earth hear
His Voice

**Lausanne
Occasional
Papers**

Lausanne Committee for World Evangelization

関西ミッション・リサーチ・センター 日本福音同盟

続・名目上のクリスチャン

《追跡ルポ》「教会を去った日、
根 田 祥 一 教会へ帰った日」

目 次

追跡ルポ：教会を去った日、教会へ帰った日

転 勤	2
転 会	5
誘 惑	9
告 白	13
牧 会	17
教 育	24
母 親	29
洗 礼	33
奉 仕	38
入 信	45
友 人	52
はがき	56
母教会	60
教 団	66
権 威	70
献 金	74
結 婚	78
過 労	81
悪 口	85
問題追跡	89
座談会：対策を探って	96
連載を終えて（総括編）	107
クリスチャンの脱落に関する調査	110

教会を去った日、教会へ帰った日

クリスチャン新聞記者・根田祥一編集

日本では一度洗礼を受けていながら教会から離れてしまう人が多いことが、しばしば指摘される。人はいつ、どんなとき、どうして教会を去るのか。復帰のきっかけはどこにあるのか。これは、84年10月、関西ミッション・リサーチ・センターが実施した『クリスチャンの脱落に関する調査』に寄せられた数々の体験談を元に、追跡ルポで解決の道を探った記録である。

(根田祥一記者、協力＝関西ミッション・リサーチ・センター)

転 勤

いつも客員で入り込めず

新しい町に引越した山口順子さん（40）＝仮名＝は、いつものようにまず教会を探した。知らない土地で未知の教会を見つけることは、ひと苦勞だ。「十字架はもっと大きく、高く掲げてあって欲しい」そう思われることがたびたびあった。

今年も転勤シーズン。夫の転勤のために何回教会を変わったことだろうか。二、三年ごとに転地を続けていると、いつも客員のような感じで教会の中に入っていくことができずにいた。クリスチャンではない夫に遠慮し、幼い子の養育で手がかかり、礼拝出席が滞りがちになってくるとなおさら、教会にはだんだん間遠くなっていった。

いつも、“よそ者”のような立場を乗り越えられない。そういうクリスチャンがたくさん居ることを知った。「主人の出勤中の昼間の間に、こういう教会に行きそびれている婦人に対する教会からの働きかけや、時間を考えた会があったらどんなによいだろうかと思いました。弱い人は本当に多いのですから」

山口さんの生家は祖母の代からのクリスチャンホームである。生まれたときから教会との関わりの中で育った。そんな彼女が教会から離れたのは、転勤が唯一の原因というわけではない。中学時代には世界史でキリスト教徒の戦いや中世キリスト教の腐敗を知ってショックを受け、高校受験が重なって一時教会から足が遠のいたことがある。

大学一年で受洗。二年後に牧師が交代。家庭的な信徒の交わりを尊重する教会の流れが変わり、教会員が次々と去って行ったこともあった。そのとき、山口さんもまた他の教会に出席するようになったが、客員としてその教会に入りきることはできなかった。

そして結婚。たび重なる転勤の生活が、いつしか教会から引き離していった。

転勤して母教会へ

七年前、転職して転勤生活に別れを告げた。郷里に帰り、再び母教会につながった。郷里の生活は夫ばかりでなく、義父や義母と一緒にますます遠慮はあるが、「宗教は違っても信仰は大切」という義母の勧めで教会生活を続けている。

「受洗以来どんなに教会から間遠くなっても信仰を捨てることもできず、時としてすがる思いや飢えを感じて、さまよっていました。たびたび教会から離れてしまいましたが、今も神様の許しのもとにつながられていることを本当に感謝しています」と、今は言うことができる。

そこに至る過程には、家庭的な交わりの中で悩みや疑問に親身になって答えてくれる信仰の友の支えがあった。「今でも、現実の問題に直面して悩んでいると必ずふさわしい慰めと力づけを彼女の信仰を通して与えられ、私も信仰に立ち返らされる」という間柄だ。

温かい交わりが支え

そうした経験から、教会に再びつながれることができるのは教会側からの働きかけや受け入れ態度に影響されることが多いのではないかと山口さんは感じている。

「信徒どうしの交わりが温かく行われていくところでは、遠慮がちな段々に入っていくことができるのは、私一人ではないと思います。礼拝のみの教会ではなかなか入ることのできないものですし、婦人部、青年部、壮年部など、その人にふさわしい部の受け入れはありがたいものです。主婦の一番出かけやすい平日の午前中にも聖書研究会、祈禱会、婦人会など、交わりの中で信仰を育てていける会があると嬉しいと思います」

転勤が益ともなるが

体験からにじみ出た実感であろう。「やむをえず転勤、就職、進学などで教会

を変わらなければならないときには、次の地のよい教会の御紹介があると、つながりができて入りやすいものです」とも。

転勤や進学に限らず、転居によって教会を移らざるをえないケースは多い。もちろん、転居が必ずしも教会を離れる原因になるとは限らない。クリスチャン新聞3月9日付の「声の広場」には、「転居もまた楽しからずや」という会社員と、「転居によって多くの出会いがあった」という主婦の投書が寄せられている。サラリーマン氏は三十五年間で十一回、約三年おきに転勤を経験したというが、「赴任でよい教会に導かれ、交わりや奉仕の機会が与えられた」ことを「すばらしい主からの贈り物」と受け取った。

しかし「弱い人は多い」という山口順子さんの訴えも事実。彼女は言う。「弱い者にとって信徒の支え合いは大きな力があるものです。教会の活動が温かい交わりでもっと外を包み込んでいただけるものであれば・・・」と。

毎年、見知らぬ土壌に降り立つたたくさんの転勤族が、魂の置き場所を求めて新しい教会の門を叩く。

調査データより

質問【あなたが教会から離れた（または離れそうになった）原因は？】に対し〈家庭の事情〉が16.5%（五位）、〈職場・学校の事情〉が14.1%（六位）。ほかに〈その他〉で〈転勤・転居〉を挙げた回答が九例（5.6%）あった。◇転居後教会を探し回ったが気に入った教会がなかった◇教会から遠くへ引っ越した◇母教会から離れたことはないが転勤で行った他の教会からは二、三度で離れた◇知らない土地で教会を変えることへの不安◇移転のため転居した教会の教派が違い違和感を感じた◇求道中に引っ越して新しい教会になじめなかった◇海外で教会に行っていたが帰国後日本の教会になじめなかった等々。「引越をして教会を紹介されたが雰囲気になじめず遠ざかっていた」という女性は、以前の教会の牧師が訪問して強く働きかけ、教会生活に復帰することができた。

【脱落者の発生防止対策】に対する牧師の回答は〈信徒の相互牧会〉に類するものが圧倒的（41.3%）に多かった。